生徒が自分の問いを見つける15分授業

中学校を基準にした授業案。15分は探究の入口です。調査・分析・まとめは、続く授業で行います。

ねらい

自分の気になることを言葉や絵で表し、問いを仮置きして、次に確かめる手がかりを考える。問いが決まらない場合も、その状態と次の小さな行動を残す。

準備と進め方

生徒用A4ワークシート1枚、筆記具、時計。身近な物や短い体験も用意。端末・生成AIは不要。個人で考える時間と、共有する範囲を本人が選ぶ機会を設ける。

はじめに 2分

声かけ例「今日あったことを、一つ思い出してみよう。休み時間や、いつも使う物のことでもいいよ。一言や絵から始めよう。」

進行の工夫 経験やつぶやきを受け止める。日常の一場面から始め、空欄や保留も認める。

気になること 3分

声かけ例「今日の休み時間、何をしてた？ そこから、覚えていることを一つ書いてみよう。別の場面でもいいよ。」

進行の工夫 したこと・使った物・好きなことも入口にする。身近な具体物を見る、触る方法も用意。

問いかけを試す 5分

声かけ例「どんなことがあったの？ 話せるところから聞かせて。」

進行の工夫 短い返事や沈黙を受け止め、次の一言か待つ時間を選ぶ。2枚目の例を参照。

問いを仮置き 3分

声かけ例「話したことや見た物で、もう少し知りたいことはある？ あれば、自分の言葉で書いてみよう。まだなら、覚えておきたいことだけでもいいよ。」

進行の工夫 本人が確かめたいことを選ぶ。言葉や絵だけで残してもよい。次時に具体物や体験へつなぐ。

次の一歩・振り返り 2分

声かけ例「次に、見たり、聞いたり、試したりしたいことはある？ まだ決まらなければ、そのまま残そう。今日、覚えておきたいことは何？」

進行の工夫 例：「次に消しゴムを使うとき、跡を見ておく」。まだ決まらなければ次に相談する時間をつくる。

生徒の反応に合わせて、声かけを選ぶ

日常の授業を想定した創作例。声かけと反応の組合せは一例です。全27分岐はサイト・テキスト版へ。

「何を書けばいい？」

ワークシートが空欄のまま。

生徒の発言「えー、別にない。何書けばいいの？」

A 今日の休み時間、何してた？

反応の一例「友達としゃべってた。」

B このごろ、つい見たり、やったりするものはある？

反応の一例「あるけど、言いたくない。」

C 机の上で目に入った物を、一つ教えて。指で示してもいいよ。

反応の一例（筆箱についたキーホルダーを持つ。）「これ、友達にもらった。」

「調べた。これでいい？」

ノートを消したら黒い跡が残り、説明を調べて写した。

生徒の発言「消しゴムのこと、調べて書いた。これでいい？」

A 調べる前、ノートを消したとき、どうなったんだっけ？

反応の一例「黒くなった。」

B 調べたところ、いっしょに見せてもらっていい？

反応の一例「さっき閉じちゃった。」

C 手元の消しゴムで、気になるところを試してみる？

反応の一例「友達のやつ、よく消えるんだよ。」

「AIの文、写せばいい？」

宿題中のスマホについて読む。架空の説明例（未検証）：「スマートフォンを見るのは、通知が気になるからです。」

生徒の発言「AIに聞いたら出てきた。これ、そのまま書けばいい？」

A この文、自分のときと同じ感じ？

反応の一例「通知なくても見ちゃうけど。」

B この文で、自分でも分かるところはある？

反応の一例「読んでない。出てきたから。」

C この文には、何を調べてそう言ったか、書いてある？

反応の一例「別に、理由までは知りたくない。」

日常の反応を受け止める

短い返事・動き → まずその一言や動きを受け止め、具体的な場面を一つ聞く。
沈黙・戸惑い → 問いを重ねず、待つ。指す・見る方法も選べるようにする。
別の話・希望 → 関心の向きを確かめ、続け方や次に話す時間を相談する。

学びの見取りと、利用する前の確認

学校の教育目標と児童生徒の実態に合わせて調整してください。

学習評価・教師の観察ポイント

知識・技能：見たこと・調べたことと、予想や未確認のことを区別しようとしているか。
思考・判断・表現：気になる理由や、確かめたいことを自分なりの方法で表しているか。
主体的に学習に取り組む態度：手がかりを選び直す、必要な助けを求めるなど、学びを調整する過程が見られるか。
発言の多さ、問いの完成度だけで内面を点数化しない。沈黙・保留も含めて過程を記録し、学校の評価規準に照らして見取る。

基礎的・汎用的能力の4領域との関係

人間関係形成・社会形成能力：対話で相手の考えを聴き、自分の考えを伝える場面。
自己理解・自己管理能力：気になることに気づき、取り組み方を自分で選ぶ場面。
課題対応能力：事実と未確認のことを分け、問いや確かめ方を考える場面。
キャリアプランニング能力：この学びが自分の今後の学習や生き方にどうつながるかを振り返る場面で扱う。15分で4領域すべての育成を達成したとは判断しない。

学年に応じた調整例

小学校高学年：書く量を減らし、絵や口頭も選べるようにする。身近な具体物から始める。
高校：自分との関わり、情報源の信頼性、調査の条件を問い返す。問いの範囲は本人と相談する。

学校での安全

実在の生徒の氏名・学校名・家庭・健康・成績等の情報はサイトに入力しない。屋外観察・人への聞き取り・実験は、先生が場所や方法の安全を確認してから。個人的な経験の共有を求めない。AIなしで実施できる授業案。

利用条件

学校の授業・校内研修での複製・配付・編集は無償。編集時は出典・版・変更箇所を残す。学校外への再配布・商用利用は事前に相談。教育効果・実授業での再現性は未検証。文部科学省の監修・認定教材ではありません。

参考資料（文部科学省）/ 2026年10月19日確認

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（第6章第3節・pp.96-97）
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_012.pdf

中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

学校現場における生成AIの利用について（Ver.2.0掲載）
https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/ai/